結核個體ノ肝臟機能變調ニ就テ
臨牀的觀察（其ノ1）
結核患者ニ於ケル「ウロビリン」尿ノ臨牀的意義

大阪市立刀根山病院（院長　太繩博士）
藤　野　保　次

（本論文ノ內容ハ第13回及第15回日本結核病學會ニ於テ發表セリ）

第一章　緒　論

生體機能ヲ支配スルノ場トシテ肝臟ガ如何ニ重要デアルカハ周知ノ事デアル。卽チソコニ勢力竝ニ調節代謝機構ノ中心ガアリ、解毒機轉ノ主要ナル地ヲナシ、且分泌器官トシテ內外ニ一定ノ Stoffe ヲ致ス外、更ニ近時體液特ニ血液運行調節ノ所トシテ甚ダ意義ガアル事ガ明カトナツタ。肝臟ニ於ケル互ニ意味ノ異ツタ肝實質細胞ト中胚葉性ノ間質細胞トノ機能ハ neural ニ、humoral ニ他ノスベテノ臟器ト關聯シテソコニ生體機能ノ全一ヲ期スル譯デ、生體ノ何處カニ異變ガ發生スレバ直チニソレガ亦カカル生體機能ノ主要ナル基地デアル肝ノ機能ニ異變ガ出現スベキハ當然ノ事デアル。

嘗テハカカル異變ノ認識ハ全ク病理解剖學的ニ主トシテ形態學的方途ニ依ツテナサレタガ、近時ハ肝機能ノ種々ノ方面ノ研索ニヨツテ確カサノ認メラレタル其ノ機能檢査法ニヨツテ生體ニ於テ之ヲ推定スル事ガ可能トナリ、之ヲ臨牀的ニ認識追究スル事ガ出來ル樣ニナツタノモ周知ノ事デアル。

偖テ結核ノ罹患ニ於テ肝臟ガ如何樣ニ障碍サレルカハ古クカラ病理解剖學的ニ研索サレ、鬱血肝、肝臟「アミロイド」變性、脂肪肝、肝萎縮等ガ重症ニ於テ證明サレル場合ノアル事ガ述ベラレテ來タガ、興味ハ既ニ結核感染罹患ノ最初期カラ肝臟機能ハ如何ナル障碍ヲ被ルカヲ知ルコトニ存スルモノデ、ソノ障碍ハ單ニ肝臟自身ノ結核菌性侵害ニヨルモノバカリデナク、他ノ臟器機能ノ侵害ニヨル二次的影響ニヨルモノヲ總括的ニ顧慮スベキデアル。

結核ノ感染ト共ニ生體機能ニ一ツノ變調ガ來リ該個體ハ所謂廣義ノ刺戟ノ作用ニ對シテ感染以前トハ別個ナ反應態度ヲトル事ガ唱ヘラレ、卽チ之ガ Pirquet ノ Allergie デアル。E. Guth ハ生體ノ植物性機能ノ變調ナル立場カラシテ之ヲ vegetative Allergie ト稱呼シタ。肝臟ガ主要ナル生體植物性機能ノ場デアル事ハ上述シタ所デモ明デアツテ、カカル全身障碍ノ一部分像トシテ既ニ最初カラソノ機能異常ガ期待サレル所デ、卽チ tuberculo-allergischer Leberschaden ガソレデアル。

近時 Anaphylaxie 又ハ Allergie ノ成立ニ向ツテ肝臟ガ特別ナル場ヲナス事ガ唱ヘラレテ來、ソノ際產生サレルト見ラレルvasoaktive Stoffe ノ作用ヲモ之ガ支配スベク、結核感染ト共ニ肝臟ガ如何ニ障碍サレルカト言フ These ト逆ニソノ Leberschaden ハ Allergie ノ成立トソノ後ノ消長ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ボスカノ問題ガ意義ガアリ、全身性疾患トシテノ結核ノ治療ニ向ツテ又ソレガ重大ナル意味ヲ持ツ點ニ於テ我等ハ新シク結核ト肝臟機能トノ關係ヲ吟味スル必要ガアル。

肝臓機能檢査法ハ種々アルガソノモノデ意味ガ異ツテキルノデ全機能如何ヲ檢スルニハソノ2 3ヲ併セ行フベキデアルガ、臨牀上患者ヲ取扱フ點デハ最モ簡單ナモノデ確カナ方法ヲ選バネバナラヌ。ソノ點デ尿「ウロビリン」ノ檢査ハ合目的性ヲ持ツ卽チ潛在性肝臓機能障碍ノ檢出ニ向ツテ最モ敏感デアリ且2、3ノ點ヲ顧慮スレバソノ成績ノ判定ニ向ツテ確實味ノアルモノノ最デアル事ハ周知ノ通リデアル。

「ウロビリン」ハ「ビリルビン」ガ腸內デ細菌ノ爲ニ還元セラレテ生ズルモノデ、一部ハ糞便ト共ニ排除サレルガ、他ハ門脈ニ吸收セラレテ肝臓ニ達シ、ソノ大部分ハココニ抑留セラレ分解乃至再ビ應用セラレルガ、一部ハ膽汁內ニ出デ、他ノ一小部分ダケ全循環系ニ入リ生理的「ウロビリン」尿ヲ起スト考ヘラレル。カク肝臓ハ「ウロビリン」代謝ヲ規定スル主要器官デアルカラ、ソノ障碍ノ程度ニ應ジテ「ウロビリン」代謝モ亦障碍サレテ尿「ウロビリン」ノ增强ヲ來スモノデアツテ、ソノ銳敏ナルコトハ旣ニ Fischler 等ノ推賞スル所デアル。

余ハ上述ノ如キ意味ニ於テ結核個體ノ肝臓機能狀態ヲ知ランガタメニ、結核患者及ビ所謂弱質兒童ニツキ、「ウロビリン」尿ノ出現狀態ヲ研索シ一定ノ成績ヲ得タルヲ以テ玆ニ報告セントス。

第二章　檢査資料及ビ方法

檢査資料ハスベテ大阪市立刀根山病院入院中ノ患者及ビ刀根山保養所ニ所謂弱質兒童トシテ收容中ノ者ヲ以テシタ。

採尿ハスベテ早朝第一尿ヲ以テシ、「ウロビリン」ヲ佐々木氏法ニヨリ檢査シ、日光光線デ全然螢光ノ認メラレナイモノヲ(－)、1.090mg/dl 以上 2.720mg/dl 以下ヲ(＋)、ソレ以上ノ濃度ノモノヲ(＋＋)トシ、中川教授ニ從ヒ(＋)以上ヲ病的「ウロビリン」尿トシタ。

第三章　實驗成績

第一節　結核患者ニ於ケル觀察

第一項　「ウロビリン」尿ト赤沈反應トノ關係

赤沈反應ハ Westergren-Katz ニ從ヒ中間値ヲトル。

赤沈反應ノ「ウロビリン」尿ニ對スル關係ヲ求ムルニ

男子 459 名ニ就テ

赤沈 / 「ウロビリン」	10mm マデ	11mm—20mm	21mm—50mm	51mm 以上	總體
一及＋	52% (67)	44% (24)	46% (71)	34% (40)	44% (202)
＋＋	16% (21)	20% (11)	17% (26)	11% (14)	16% (72)
＋＋＋	32% (41)	36% (20)	37% (56)	55% (68)	40% (185)
計	100% (129)	100% (55)	100% (153)	100% (122)	100% (459)

女子 165 名ニ就テ

赤沈 / 「ウロビリン」	15mm マデ	16mm—25mm	26mm—50mm	51mm 以上	總體
一及＋	60% (27)	75% (18)	59% (23)	38.6% (22)	54% (90)
＋＋	20% (9)	4% (1)	15% (6)	22.8% (13)	18% (29)
＋＋＋	20% (9)	21% (5)	26% (10)	38.6% (22)	28% (46)
計	100% (45)	100% (24)	100% (39)	100% (57)	100% (165)

赤沈速度ノ强促進ノ部＝於テ「ウロビリン」尿ノ陽性率ガ高イ。然シ赤沈速度ガ正常値ヲ示セルモノ＝於テモ「ウロビリン」尿ノ陽性ナルモノガ約半數＝アルコトハ注意スベキ事象デアツテ、個體ガ結核＝感染罹患スルトカナリ早期＝「ウロビリン」尿ヲ起スモノデナイカト考ヘラレル。又逆＝「ウロビリン」尿ノ赤沈反應＝對スル關係ヲ求ムルニ

男子 459 名＝就テ

「ウロビリン」 ＼ 赤沈	一及＋		++		+++		總體	
10mm マデ	33.2%	(67)	29.2%	(21)	22.2%	(41)	28.1%	(129)
11mm—20mm	11.9%	(24)	15.3%	(11)	10.8%	(20)	12.0%	(55)
21mm—50mm	35.1%	(71)	36.1%	(26)	30.2%	(56)	33.3%	(153)
50mm 以上	19.8%	(40)	19.4%	(14)	36.8%	(68)	26.6%	(122)
計	100%	(202)	100%	(72)	100%	(185)	100%	(459)

女子 165 名＝就テ

「ウロビリン」 ＼ 赤沈	一及＋		++		+++		總體	
15mm マデ	30%	(27)	31%	(9)	19.6%	(9)	27.3%	(45)
16mm—25mm	20%	(18)	3.5%	(1)	10.9%	(5)	14.5%	(24)
26mm—50mm	25.6%	(23)	20.7%	(6)	21.7%	(10)	23.6%	(39)
50mm 以上	24.4%	(22)	44.8%	(13)	47.8%	(22)	34.6%	(57)
計	100%	(90)	100%	(29)	100%	(46)	100%	(165)

「ウロビリン」尿陽性者＝於テハ赤沈速度ノ促進セルモノガ多イ。

然シ「ウロビリン」尿ト赤沈反應トノ關係ハアマリ密接ナル相關關係＝アルトハ言ヘナイ。サレド共＝結核菌侵襲＝ヨル Noxe ノ作用＝ヨリ惹起サレタ生體ノ異常狀態ヲ示スモノトシテ意義深キモノデアツテ、相俟ツテ結核個體ノ體況並＝豫後ノ判定＝資スベキデアル。

第二項　「ウロビリン」尿ト熱型トノ關係

熱型ノ「ウロビリン」尿＝對スル關係ヲ求ムルニ

男子 459 名　女子 165 名＝就テ

「ウロビリン」 ＼ 熱型	平熱		不安定熱(日差0.7℃以上)		微熱37.5℃以下		38.5℃以下		38.5℃以上		總體	
一及＋	53%	(149)	44%	(36)	44%	(74)	39%	(30)	21%	(3)	47%	(292)
++	17%	(49)	10%	(8)	18%	(31)	16%	(12)	7%	(1)	16%	(101)
+++	30%	(86)	46%	(38)	38%	(63)	45%	(34)	72%	(10)	37%	(231)
計	100%	(284)	100%	(82)	100%	(168)	100%	(76)	100%	(14)	100%	(624)

又逆＝「ウロビリン」尿ノ熱型＝對スル關係ヲ求ムルニ

男子 459 名　女子 165 名＝就テ

「ウロビリン」 ＼ 熱型	一及＋		++		+++		總體	
平熱	51%	(149)	48.5%	(49)	37.2%	(86)	45.5%	(284)
不安定熱(日差 0.7℃ 以上)	12.3%	(36)	7.9%	(8)	16.5%	(38)	13.1%	(82)
微熱(37.5℃ 以下)	25.4%	(74)	30.7%	(31)	27.3%	(63)	27.0%	(168)
38.5℃ マデ	10.3%	(30)	11.9%	(12)	14.7%	(34)	12.2%	(76)
38.5℃ 以上	1.0%	(3)	1.0%	(1)	4.3%	(10)	2.2%	(14)
計	100%	(292)	100%	(101)	100%	(231)	100%	(624)

體溫上昇ノ程度高キモノニ「ウロビリン」尿ノ陽性者ガ多ク、マタ逆ニ「ウロビリン」尿陽性者デハ體溫上昇ヲ認メルコトガ多イ。然シコノ關係ハ密接ナルモノデナク、平熱ナル者ニモ約半數ノ「ウロビリン」尿陽性者ガアル。故ニ發熱ガ「ウロビリン」尿ヲ起ス直接ノ原因デハナクシテ、結核菌感染ニヨル Noxe ガソノ個體ノ肝臓機能ニ變調ヲ來サシメ、以テ「ウロビリン」尿ヲ起シ、中毒程度ガヨリ强度ニナリハジメテ體溫ノ異變ヲ來スモノデアルト考ヘラレル。從ツテ「ウロビリン」尿ハ「體溫上昇」ヨリモ生體ノ障碍程度ヲ知ルニハヨリ確實ナル且鋭敏ナル示標デアルトイヘル。

第三項　「ウロビリン」尿ト「ウロクロモゲン」尿トノ關係

Weiss 氏尿「ウロクロモゲン」反應ハ渡邊、藤野ノ變法ニヨリ行ツタ。

「ウロクロモゲン」尿ノ「ウロビリン」尿ニ對スル關係ヲ求ムルニ

男子 459 名　女子 165 名ニ就テ

「ウロビリン」＼「ウロクロモゲン」	―	＋	++	+++	總體
― 及 ＋	53% (262)	38% (15)	25% (10)	10% (5)	47% (292)
++	17% (85)	13% (5)	15% (6)	10% (5)	16% (101)
+++	30% (149)	49% (19)	60% (24)	80% (37)	37% (231)
計	100% (496)	100% (39)	100% (40)	100% (49)	100% (624)

逆ニ「ウロビリン」尿ノ「ウロクロモゲン」尿ニ對スル關係ヲ求ムルニ

男子 459 名　女子 165 名ニ就テ

「ウロクロモゲン」＼「ウロビリン」	― 及 ＋	++	+++	總體
―	89.7% (262)	84% (85)	64.5% (149)	79.5% (496)
＋	5.2% (15)	5% (5)	8.2% (19)	6.2% (39)
++	3.4% (10)	6% (6)	10.4% (24)	6.4% (40)
+++	1.7% (5)	5% (5)	16.9% (39)	7.9% (49)
計	100% (292)	100% (101)	100% (231)	100% (624)

「ウロビリン」尿ト「ウロクロモゲン」尿トハ互ニ密接ナ相關關係ニ立ツコトヲ認メル。

コレハ「ウロクロモゲン」尿ハ生體機能變調ニ基ク「トリプトファーン」分解徑路ノ偏移ノ結果生ズルモノデ、コレ又肝臓機能ヲ中心トスル現象ナルヲ以テ肝臓機能變調ノ表現デアル「ウロビリン」尿ト離ルベカラザル關係ニアルコトハ自明ノ理デアル。然シ「ウロクロモゲン」尿陰性者ノ半數ハ「ウロビリン」尿陽性デ、「ウロビリン」尿陰性者ノ殆ド全部ハ「ウロクロモゲン」尿陰性デアルコトニヨリ、肝臓機能ガ結核菌ノ侵襲ニヨリ生ゼル Noxe ニヨリ障碍サレ變調ヲ來ストキ、先ヅ「ウロビリン」尿陽性トナリ、次デソノ障碍ガ一程度以上トナリハジメテ「ウロクロモゲン」尿陽性トナルモノト考ヘラレル。從ツテ兩反應ヲ同時ニ施行スレバ結核個體ノ植物性機能變調狀態ヲヨリ確實ニ知ルコトガ出來ルト考ヘラレル。

第二節　所謂弱質兒童ニ於ケル觀察

第一項　「ウロビリン」尿ト赤沈反應トノ關係

赤沈反應ノ「ウロビリン」尿ニ對スル關係ヲ求ムルニ

兒童 126 名ニ就テ

赤沈 ＼「ウロビリン」	10mm 以下	11mm—20mm	21mm—40mm	41mm 以上	總體
一及＋	72.5% (29)	70% (35)	64.5% (20)	40% (2)	68.3% (86)
++及+++	27.5% (11)	30% (15)	35.5% (11)	60% (3)	31.7% (40)
計	100% (40)	100% (50)	100% (31)	100% (5)	100% (126)

又逆ニ「ウロビリン」尿ノ赤沈反應ニ對スル關係　　ヲ求ムルニ

兒童 126 名ニ就テ

「ウロビリン」＼赤沈	一及＋	++及+++	總體
10mm 以下	33.7% (29)	27.5% (11)	31.7% (40)
11mm—20mm	40.7% (35)	37.5% (15)	39.7% (50)
21mm—40mm	23.3% (20)	27.5% (11)	24.6% (31)
40mm 以上	2.3% (2)	7.5% (3)	4.0% (5)
計	100% (86)	100% (40)	100% (126)

上ノ成績ヲ結核患者ニ於ケル成績ト比較スルニ、赤沈反應ノ各區分ニ於ケル「ウロビリン」尿ノ陽性率ガ一般ニ低イ。而シテ赤沈値 21mm 以上ニ於テハ約半數ガ「ウロビリン」尿陽性デ、既ニ結核患者デハ赤沈ガ正常値ヲ示セル者ニ於テコノ程度ノ陽性率ガ認メラレタ。故ニ所謂弱質兒童中赤沈値 20mm 以下ヲ示セルモノノ中ニハ少クトモソレガ結核以外ノ原因ニヨルモノガ相當ニアルコトヲ思ハシムルモノデ、既ニコノ赤沈値程度デ「ウロビリン」尿ガ陽性デアルガ如キ場合ハ特ニ注意スベキデアルコトガ知ラレル。即チ弱質兒童ニ於テハ赤沈値ヨリモ尿「ウロビリン」ノ發現增强ニ先ヅ重點ヲ置クベキデアル。

第二項　「ウロビリン」尿ト「レ」線寫眞所見トノ關係

「レントゲン」寫眞ニ於テ病的變化ヲ認メ得ザルモノヲ(—)、硬化セル原發竈、輕度肺門影擴大、肺紋理增强、肋膜癒著等ノ變化ヲ認ムルモノヲ(＋)、肺ニ於ケル新鮮ナル病竈、肺門腺結核、肋膜炎等養護ヲ要スト認メラレルモノヲ(++)トス。

「レ」線寫眞所見ノ「ウロビリン」尿ニ對スル關係ヲ求ムルニ

兒童 126 名ニ就テ

X線所見＼「ウロビリン」	—	＋	++	總體
一及＋	76.5% (13)	77.5% (55)	47.4% (18)	68.3% (86)
++及+++	23.5% (4)	22.5% (16)	52.6% (20)	31.7% (40)
計	100% (17)	100% (71)	100% (38)	100% (126)

明カニ「レントゲン」寫眞ニ病的ト思考サレルガ如キ陰影ヲ有スル者デハ半數ノ「ウロビリン」尿陽性者ガアル。コレハ輕症患者ニ於ケル陽性率ト大體一致スルコトハ前節ノ各項ト比較スレバ明カデアル。コレニ反シ「レントゲン」寫眞ニ病的所見ノ認メラレザルモノデハ「ウロビリン」尿陽性者ハ非常ニ少イ。又逆ニ「ウロビリン」尿ノ「レ」線寫眞所見ニ對スル關係ヲ求ムルニ

兒童 126 名ニ就テ

「ウロビリン」＼X線所見	一及＋	++及+++	總體
—	15.1% (13)	10% (4)	13.5% (17)
＋	64.0% (55)	40% (16)	56.3% (71)
++	20.9% (18)	50% (20)	30.2% (38)
計	100% (86)	100% (40)	100% (126)

「ウロビリン」尿陰性者デハ「レ」線像ニ顯著ナ病的所見ヲ認ムルコト少ク、コレニ反シ「ウロビリン」尿陽性者デハ半數ニ於テ明カニ「レ」線像ニ結核性變化ヲ認ム。故ニ弱質兒童ニ於テハ「ウロビリン」尿陽性者ナルトキハ特別ノ注意ヲ結核感染ノ方向ニ向ケテ顧慮スベキデアル。

第三項　「ウロビリン」尿ト「ツベルクリン・アレルギー」トノ關係

千倍ノ舊「ツベルクリン」(傳染病研究所製) 0.1 c.c.ヲ皮内ニ接種48時間後ノ發赤ノ直徑5mm以下ヲ陰性トシ、25mm以上ヲ强陽性トス。「ツベルクリン・アレルギー」ノ「ウロビリン」尿ニ對スル關係ヲ求ムルニ

兒童121名ニ就テ

「アレルギー」 / 「ウロビリン」	― (5mm 以下)		⫼ (25mm 以上)		總體	
― 及 ＋	75%	(39)	63.8%	(44)	68.6%	(83)
⫽ 及 ⫼	25%	(13)	36.2%	(25)	31.4%	(38)
計	100%	(52)	100%	(69)	100%	(121)

「ツベルクリン・アレルギー」强陽性者中デハ「ツベルクリン・アレルギー」者中ヨリモ、「ウロビリン」尿陽性者ガ多イ。「ツベルクリン・アレルギー」者中デ「ウロビリン」尿陽性ナル者ハ初感染後未ダニ「ツベルクリン・アレルギー」ノ發現セザル前驅期ノ變調ヲ意味スルモノガアルト思ハレル。

又逆ニ「ウロビリン」尿ノ「ツベルクリン・アレルギー」ニ對スル關係ヲ求ムルニ

兒童121名ニ就テ

「ウロビリン」 / 「アレルギー」	― 及 ＋		⫽ 及 ⫼		總體	
―	47%	(39)	34.2%	(13)	43%	(52)
⫼	53%	(44)	65.8%	(25)	57%	(69)
計	100%	(83)	100%	(38)	100%	(121)

「ウロビリン」尿陽性者デハ「ウロビリン」尿陰性者中ヨリモ「ツベルクリン・アレルギー」陽性ナル者ガ多イ。

以上二樣ノ觀察ヨリシテ「ウロビリン」尿陽性ナルガ如キ結核罹患個體ノ植物性機能變調狀態ハ確ニ「ツベルクリン・アレルギー」ヲ決定スル一條件ヲナスト考ヘラレル。然シ「ツベルクリン・アレルギー」ハカカル條件以外ニ他ノ諸種ノ因子ニヨリ決定セラレルガ如クデアル。コノ成績ハ渡邊博士ガ「アドレナリン」敏感度ト「ツベルクリン・アレルギー」トノ關係ニ就テ論ゼラレタ所ト類似ナ事象デアル。

第四項　「ウロビリン」尿ト肝臓觸知トノ關係

10歳乃至13歳ノ兒童ニ於テハ肝臓ヲ觸知シ得ルモノト然ラザルモノトガアル。故ニ「ウロビリン」尿ト肝臓觸知トノ關係ヲ求ムルニ次ノ如クデアル。

兒童126名ニ就テ

肝臓觸知 / 「ウロビリン」	―		＋		總體	
― 及 ＋	70.1%	(54)	65.3%	(32)	68.3%	(86)
⫽ 及 ⫼	29.9%	(23)	34.7%	(17)	31.7%	(40)
計	100%	(77)	100%	(49)	100%	(126)

「ウロビリン」 / 肝臓觸知	― 及 ＋		⫽ 及 ⫼		總體	
―	62.8%	(54)	57.5%	(23)	61%	(77)
＋	37.2%	(32)	42.5%	(17)	39%	(49)
計	100%	(86)	100%	(40)	100%	(126)

肝臓ヲ觸知セラレルモノニ於テハ然ラザルモノニ比シ「ウロビリン」尿陽性者ガヤヤ多ク、「ウロビリン」尿陽性者中ニハ陰性者中ヨリモ肝臓ヲ

觸知セラレル者ガ多イ。然シコノ關係ハ決シテ明カナ相關關係ニ立ツモノデハナイ。

第四章　考　察

生體ガ結核菌ノ侵襲ヲ受ケルトコロニ一ツノ生物學的現象ガ起キ、ソノ結果生體ニハ所謂 Umstimmung ナル狀態ガ成立スル事ハ上述シタ通リデアルガコノ Umstimmung ハ主トシテ生體ノ植物性機能變調トシテ表現セラレルモノデアツテ、コレガマタ病機ヲ決定スルモノデアルコトハ既ニ當刀根山病院太繩院長及ビ渡邊博士ノ强調セラレタ所デアル。

偖テ肝臟ガ生體植物機能ノ主要ナル場デアル事ハ緒論ニ於テ述ベタ所デアルガ、生體ノ結核感染罹患ニ際シテ生體ノ主要臟器ノ一ツナルコノ肝臟ガ如何ナル態度ヲトルカヲ「ウロビリン」尿ノ出現ヲ指標トシテ追究シ、コノ反應ガ結核活動性診斷ニ向ツテ如何ナル意義ガアルカヲ明カニシタ。

赤沈速度ノ促進シ發熱强度ナル重症ノ場合ニ於テ「ウロビリン」尿出現率ノ高イノハ當然デアツテ、猶コノ際ハ重症ニ伴ツテ來ル下痢ソノ他ノ諸關係デ「ウロビリン」尿陰性デアル事ノ可能ガアリ、從ツテ肝臟機能障碍ノ率ハヨリ高イモノト見テヨイ。臨牀ノ實際ニ當ツテ有意義デアルノハ寧ロ輕症ニ於ケル場合ノ肝臟機能狀態ノ如何ヲ見ル事デ、而モ檢査ノ結果相當ノ率ニ於テ輕症ニソノ陽性ヲ證シ、結核感染罹患ノ早期カラ既ニ潛在性肝臟機能障碍ノ存スル事ヲ了知シタ。カカル障碍ハ例ヘ一時的ニ出現シタトシテモ病勢ト言フ點カラハソノ增惡傾向ヲハラムモノトシテ適當ニ處置ヲ講ズ可キデアツテ、以下ノ各報告ニ述ブルガ如キ處置ニヨリ「ウロビリン」尿ヲ來スガ如キ體況ハ容易ニ治癒セシメ得ルモノデアル。カカル事ハ既ニ「ウロクロモゲン」尿ニ就テ渡邊博士ト共ニ述ベタ所デアリ、且「ウロビリン」尿ト「ウロクロモゲン」尿トハ密接ナル關係ニ立ツモノナルコトハ上記ノ成績ノ如クデアルカラ兩反應ヲ同時ニ施行スル事ハ病機吟味ノ上ニ非常ニ有意義ナルコトト信ズル。

一般ニ過敏症現象ハ前處置ニヨツテ像メ肝機能障碍ガ惹起サレタ時ニ初メテ次ノ操作ニヨツテ發現シ得ルモノデアルコトハ實驗的ニ三田教室ニ於テ決定サレタ事實デアリ、臨牀上又「アレルギー」性疾患ニ際シテ肝臟機能ガ障碍サレテヰルコトガ多イ事モ證明サレテヰルノデ、ココニ「ツベルクリン・アレルギー」ト肝臟機能トノ關係ヲ觀ルタメ「ウロビリン」尿トソレトノ關係ヲ檢索シタガ立派ナ相關關係ノ成立ガナイ。然シコレハ「ツベルクリン・アレルギー」ノ發現早期ニ檢索ス可キモノデナイカト考ヘラレル。

第五章　結　論

1.　結核患者ニ就テ「ウロビリン」尿ヲ檢査シタル結果ハ次ノ如クデアル。

(a) 赤沈速度正常値ヲ示セルモノデ陽性者ハ約半數デアル。

赤沈反應ト「ウロビリン」尿トハ稍〻平行スルガコノ相關關係ハ密接デハナイ。

(b) 平熱者デ陽性ナルモノハ約半數アル。體溫上昇ト「ウロビリン」尿トハ稍〻平行スルガコノ相關關係ハ密接デハナイ。

(c) 尿「ウロクロモゲン」陰性者デ尿「ウロビリン」陽性ナルモノハ約半數デアル。「ウロビリン」尿ト「ウロクロモゲン」尿トハ平行關係ニアル。

2.　所謂弱質兒童ニ就キ「ウロビリン」尿ヲ檢査シタル結果ハ次ノ如クデアル。

(a) 赤沈速度 20mm 以上ヲ示スモノニ於テハ陽性者ハ約半數デアル。

(b)「レ」線像所見ニヨリ病的ト思考セラレル者ニハ陽性者ガ約半數アル。又「ウロビリン」尿陽

性者ノ約半數ハ「レ」線寫眞ニ病的ト思考セラレル像ヲ示ス。

(c)「ツベルクリン・アレルギー」ト「ウロビリン」尿トハ一定ノ關係ヲ有ス。

(d)肝臓觸知ト「ウロビリン」尿トハ直接的關係ヲ有セズ。

擱筆ニ臨ミ不斷ノ御鞭撻ト本稿ノ御校閲ヲ賜ハリシ院長太繩博士及ビ御指導、御校閲ヲ賜ハリシ醫長渡邊博士ニ謝意ヲ表ス。

尚御多忙中一モ不拘本稿御校閲ノ榮ヲ賜ハリシ大阪帝大市原助教授ニ萬腔ノ感謝ヲ捧グ。

主要ナル文獻

1) **佐々木**, 社會醫學雜誌. 昭和5年. 2) **渡邊**, 結核, 第8卷, 昭和5年. 3) **太繩**, 結核. 第14卷, 昭和11年. 4) **渡邊, 藤野**, 結核. 第15卷, 昭和12年. 5) **中川**, 日本內科學會雜誌. 第21卷, 昭和8年. 6) **Walter, Siedel** und **Erhard Meier**, Hoppe-Seyler's Z. f. Physiol. Chem. Bd. 242, 1936. 7) **Fischer**, Dtsch. m. Wschr. 60Jg. Nr. 31, 1934. 8) **Landau**, Beiträge z. Kl. d. Tbc. Bd. 61, 1925. 9) **Saupe**, Ergeb. d. inn. Med. und Kinderheilkunde Bd. 22, 1922. 10) **Wilhelm Hildebrandt**, Z. f. Kl. Med. Bd. 59, 1906. 11) **荒木**, 社會醫學雜誌. 第10卷, 昭和6年. 12) **三澤**, 日本內科學會雜誌. 昭和12年.